

1 学校教育（義務教育・高等学校教育等）

（1）義務教育

義務教育の課題

競争力ある個人を育てる（考えさせる、他人を意識させる）
前提としての基礎学力を国際的レベルへ引き戻す必要がある
子ども達や次代を担う世代が自ら考える必要がある
そのために「考える力」「ゆとり」や「生きる力」を育むのではない
考えるためには基礎学力、基礎知識を確実に確保する必要がある
子ども達の基礎学力、基礎知識の習熟に力のない教員は再研修する

キーワード

自ら考えるための基礎的学力、知識の確保
学校の社会化・社会の学校化・地域人材の積極活用
義務教育施設の機能複合化・施設複合化 コミュニティスクール
学校を地域と共有する
良質な教育環境の確保
地域に支えられる「特色」
安全な学校 安心できる学校：4つの安心（子どもが安心できる学校、保護者が安心できる学校、教員が安心できる学校、地域が安心できる学校）

基本政策案（義務教育編）

- 1 次代を担う世代が「自ら考える」ための基礎学力、基礎体力、基礎知識の習熟を徹底する（学びと遊びと知恵の調和）
- 2 基礎学力の確保のため、川崎基礎学力スタンダードを構築し公表する
- 3 3つの基礎を徹底するため教員が先頭に立ち、地域人材を活用しながら、地域とともに安心の義務教育を行う
- 4 子ども達が「他への優しさ」を常に学ぶことができるような、地域社会に立脚した教育環境を整える
- 5 義務教育施設を地域と共有する発想で、地域社会、地域社会における市民の諸活動の拠点施設とする
- 6 地域社会と共存し、地域の力による「特色ある」学校づくりを進める
- 7 習熟度別学習や地域の力を活用したきめ細やかな学習を進める
- 8 不登校対策や特別な教育支援を必要とする児童・生徒への教育を充実させる

- 9 必要に応じ学校を選択できる仕組みを導入する
- 10 それぞれの学校の基礎学力到達度や特色などを客観的に評価する仕組みを導入する
- 11 教員の力量の向上を徹底し、力量ある教員による地域と協働した義務教育を進める
- 12 4つの教育安心（こども、保護者、教員、地域の教育安心）を確保する

（２）高等教育

高等教育の課題

社会に還元できる高度の知識習得をめざす
高等教育を地域に開く（聴講制度、生涯学習）
大学との連携、中学校との連携を強化する
高度な教育レベルをめざす

キーワード

社会と世界に眼を向ける高度な学力、知識の確保
高度な知識能力を持つ有為な地域人材の積極活用
学校施設が地域総合教育機能を持ち、生涯教育の拠点となる
市立高等学校の専門性の強化
大学、大学院の誘致
市立中学校と市立高校の一環教育

基本政策案（高等教育編）

- 1 社会と世界に眼を向けた高度な学力、知識の確保を図る
- 2 高度な知識能力を持つ有為な地域人材の積極活用を図る
- 3 私立大学、大学院の誘致を図り、市立高校との多様な面での連携を図る
- 4 市立中学校と市立高等学校の一環教育の検討を行う
- 5 市立高等学校を地域総合教育施設とし、市民の生涯学習等の場とする
- 6 教員の指導力の強化（都立日比谷高校の事例）

インターンシップ制を市内企業・研究所と組み、就職率の高い高等学校をめざす。（商業高校等）コンピュータ技能者の需要が高い

（３）教育行政

教育行政の課題

市民のための教育行政の確立

義務教育における基礎・基本の徹底と地域を基盤とした特色の確保

行政区単位の教育行政の展開と全市的基礎学力等基準の確保

学校評価制度、学校選択性の導入

地域教育会議を抜本的に活性化する必要がある

特色と選択の両立が必要

学校施設を地域社会の拠点とする必要がある

基本政策案

- 1 基礎に立脚した多様性の確保のために教員の指導力を向上させる
- 2 義務教育における基礎の重視と特色・選択の2階層構造の確立
 - ・ 基礎は全市統一
 - ・ 特色、選択は区単位
- 3 義務教育から高等教育までの一貫した教育行政を展開する
- 4 高等教育が地域に貢献できる仕組みと民間活用型高等教育の充実拡大を図る
- 5 不断に教員の教育力の向上を図り、義務教育における4つの安心を確保するとともに、社会と世界を見据えた高度な高等教育を展開する
- 6 学校施設を地域と共有する発想で地域コミュニティの拠点とする
 - ・ 地域生涯活動の場としての活用
 - ・ 災害発生時の受け皿としての活用
 - ・ 学校を花の種苗地、植木等の体験学習の場、農地として自然に回帰させる
- 7 地域人材の能力を最大限に活用し、地域社会と連動した生涯活動を展開するとともに、教育の場で地域人材を積極的に活用する
- 8 教員が地域活動に参加する仕組みの構築
- 9 学校施設の整備改築にあわせ、複合化、有効利用を推進する

教育関連参考（川崎市教育プラン中間報告検討素案）

1 学校教育

子どもたちの確かな成長を願って

- ・ いのちの教育、夢をはぐくむこころの教育の推進
- ・ 子どもが生涯にわたって健やかに生き抜く教育に取り組む
- ・ より良い社会を創り出していく「確かな学力」の育成をめざす

特色ある学校づくりをめざして

- ・ 川崎という地域に根ざした、特色ある教育活動の編成と展開をめざす
- ・ 幼稚園から中学校までの 12 年間の子どもの成長を見通した教育活動の展開をめざす
- ・ 国際化・情報化に対応した教育を一層推進する
- ・ 創意工夫を発揮できる学校づくりをめざす

教職員の力量形成と向上をめざして

- ・ 管理職・教職員のあり方の見直しを図る
- ・ 実践的な学校支援体制づくりを進める
- ・ 研修プログラムの再編を進める

学校・家庭・地域の子育ての支援体制づくりをめざす

- ・ 学校のグランドデザインと内部評価・外部評価の取組を進める
- ・ 学校と地域コミュニティとの関係づくりを行う

2 教育行政

多様性、選択性の導入を図る

自律性の尊重と公共性、公益性の確保を図る（学校評価）

協働性と専門性の推進を図る

柔軟性と民間活力の導入を図る

4 市民活動・生涯活動・生涯学習・コミュニティ

基本政策案

- (1) 市民の自主的な活動が社会の活動へ結びつくような仕組みを構築する
- (2) 義務教育施設を地域コミュニティの拠点を中心として位置づけ、地域における市民の自主的な活動の場の支援を図ります
- (3) 各区の市民館を区レベルの市民活動の場として位置づけます
- (4) 区を中心にした市民利用施設のネットワークを構築し、市民の自主的な諸活動を支援する仕組みを構築する
- (5) 市民サービスの提供に関し、NPOを初めとする多彩な市民活動を活用できる仕組みを構築する
- (6) 公園を憩いの場としてだけでなく市民活動の場としても活用する
- (7) シニア世代（サラリーマン・リタアメント世代）が培った能力、技術や知識を地域社会で活かせる仕組みを構築する
- (8) 博物館、美術館施設の価値を広め、その運営等に市民の活力を活用する

社会教育編参考（川崎市教育プラン中間報告検討素案）

- 1 地域に密着した生涯学習支援体制を構築する
 - ・ 行政区単位で地域の生涯学習をコーディネートする機能を整備する
 - ・ 市民利用施設のネットワーク化を進める
 - ・ 地域の人材活用、人材育成システムを構築する
 - ・ アウトリーチを促進する
 - ・ 地域を核としたスポーツ振興システムを構築する
- 2 学校教育と社会教育の連携
 - ・ 地域での子どもの居場所づくりを進める
 - ・ 地域の中での社会体験活動を推進する
 - ・ 地域による学校教育活動のサポートを推進する
 - ・ 地域を挙げた子育て支援体制の構築を進める
- 3 新たな社会教育施策の構築
 - ・ 社会教育としての新たな取り組みを考える
 - ・ NPO、ボランティアグループ等との連携を進める
 - ・ 文化財保護と博物館活動を市民参加により推進する